

esse—
sense

FORUM 2023

エッセンスフォーラム 2023

Encounter of the Impacts

「あらゆる研究「知」が、自在に社会と混ざり合う機会を生み出す」

このミッションの実現を目指し、株式会社エッセンスは本日、第一回「エッセンスフォーラム 2023 —Encounter of the Impacts—」を開催します。

エッセンスは、2021年9月にユーザー登録型WEBメディアesse-sense(エッセンス)をリリースし、20の大学・学術機関と連携しながら100を超える研究者のオリジナル取材記事をお届けし、日本最大規模の研究者メディアとして発展してきました。

リリースから2周年を迎えるこの9月に、100名の登壇者と400名の現地参加者をお迎えし、共催パートナー、協力機関、協賛企業と共に本フォーラムを開催します。

エッセンスフォーラムは、研究者のおもしろさ、オリジナリティ、そして独自の視点で描き実現に取り組む新しい未来に出会うための計21のセッションとピッチプレゼンテーションによる複合型カンファレンスです。

第一回のテーマである「インパクトに出会う(Encounter of the Impacts)」は、このフォーラムでの出会いが衝撃的なものになることを予感し、名付けました。

本日はお越しいただきありがとうございます。

会場にて多くの出会いと気づき、未来への道筋が生まれることを楽しみにしています。

株式会社エッセンス 代表取締役 西村勇哉



PROGRAM

10:00- OPENING, CHECK IN 4F ②

10:20- OPENING SESSION 4F ②
研究知とイノベーションを接続するエコシステムの構築にむけて
蛭間芳樹, 及部智仁, 大室悦賀, 井上有紀, 西村勇哉

11:30- SESSION 1-A 4F ②
未来に出会う先端研究の現在とその所在
大久保知美, 渡辺智秋, 真尾淑子, 安田洋祐, 西村勇哉

SESSION 1-B 4F ①
大学発スタートアップエコシステムのGROWTH
加藤雅俊, 島岡未来子, 白坂成功, 越智敏之, 井上有紀

12:55- LUNCH SESSION A 4F ②
サントリー生命科学財団セッション / 新領域の創出のために必要なエコシステムを問う

LUNCH SESSION B 4F ①
LABBASEセッション / 研究者のポテンシャルを解き放つ新たな道

LUNCH SESSION C 4F ③
ローンディールセッション / 越境による研究知とイノベーションを促進するエコシステム

LUNCH BREAK

14:00- SESSION 2-A 4F ③
研究知と共創する新たな産学連携の可能性
藤原留美, 西堀衣子, 稲垣正祥, 林 靖人, 西村勇哉

SESSION 2-B 4F ②
エッセンスセッション / 先端研究のインパクトに出会う 1
砂川玄志郎, 大黒達也, 丸山美帆子, 松下祥子, 竹村明洋

SESSION 2-C 5F ⑤
GTIEセッション / 大学発スタートアップのインパクトに出会う 1 (12分×5名)
所千晴, 入澤寿平, 森川結策, 刑部祐里子, 真尾淑子

SESSION 2-D 5F ④
“ムーンショット”が描くインパクトと未来に出会う
山本剛, 熊谷誠慈, 隅屋照佳

SESSION 2-E 4F ①
エコノミクスデザインセッション / 先端経済学のインパクトに出会う 1
西本草宏, 鹿内学, 安田洋祐

15:45- SESSION 3-A 4F ③
企業価値に生きるリベラルアーツと研究知

高梨直哉, 中間真一, 占部まり, 矢野正也, 岩井睦雄, 西村勇哉

SESSION 3-B 4F ②
エッセンスセッション / 先端研究のインパクトに出会う 2

征矢野清, 平良東紀, 小島伸彦, 天野麻穂, 池内与志穂

SESSION 3-C 5F ⑤
GTIEセッション / 研究発スタートアップのインパクトに出会う 2 (12分×5名)
程久美子, 中馬吉郎, 竹田浩之, 田中義正, 秋山真一, 真尾淑子

SESSION 3-D 5F ④
DISTセッション / 沖縄に集う先端研究のインパクトに出会う
佐藤矩行, 新竹稔, 野村陽子, オリガ・エリセーバ, 田中 和正, 隅屋輝佳

SESSION 3-E 4F ①
エコノミクスデザインセッション / 先端経済学のインパクトに出会う 2
河田陽向, 菅澤翔之助, 安田洋祐

17:30- SESSION 4-A 4F ③
研究価値を社会に届けるための投資のあり方を問う
野口義文, 渡邊文隆, 中村貴裕, 渡邊拓, 西村勇哉

SESSION 4-B 4F ②
エッセンスセッション / 先端研究のインパクトに出会う 3
大関真之, 瀬名波出, 石津智大, 鈴木達生, 塩瀬隆之

SESSION 4-C 5F ⑤
GTIEセッション / 研究発スタートアップのインパクトに出会う 3 (12分×5名)
木村郁哉, 東清一郎, 徳永旭将, 藤田涼平, 真尾淑子

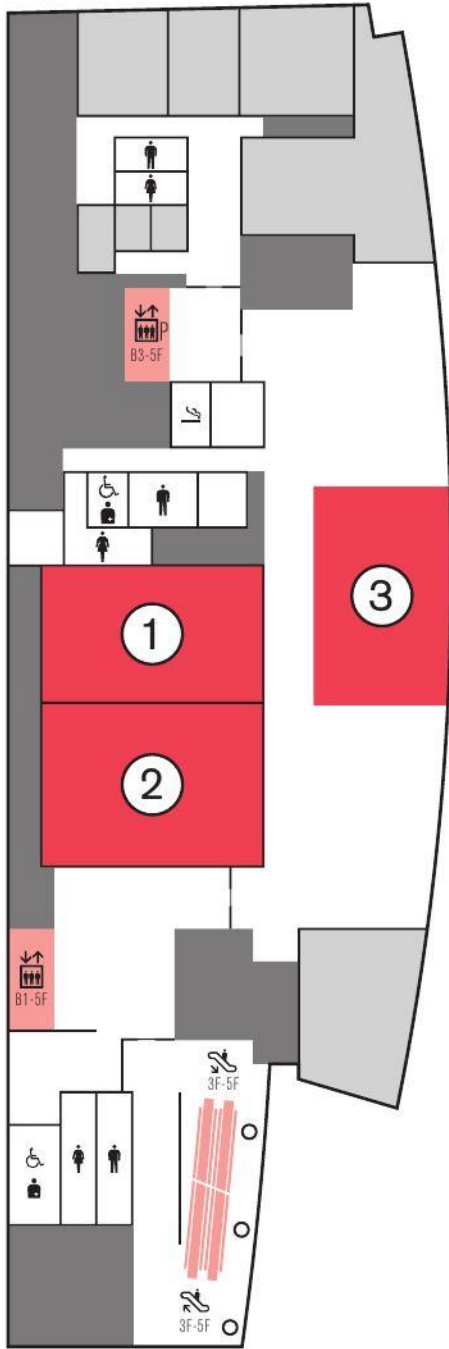
SESSION 4-D 5F ④
東大EMPセッション / 東大発のリベラルアーツプログラムのインパクトに出会う
小野塚知二, 廣吉康平, 下城理重子, 高梨直哉, 宝槻圭美

SESSION 4-E 4F ①
エコノミクスデザインセッション / 先端経済学のインパクトに出会う 3
玉手慎太郎, 横山和輝, 安田洋祐

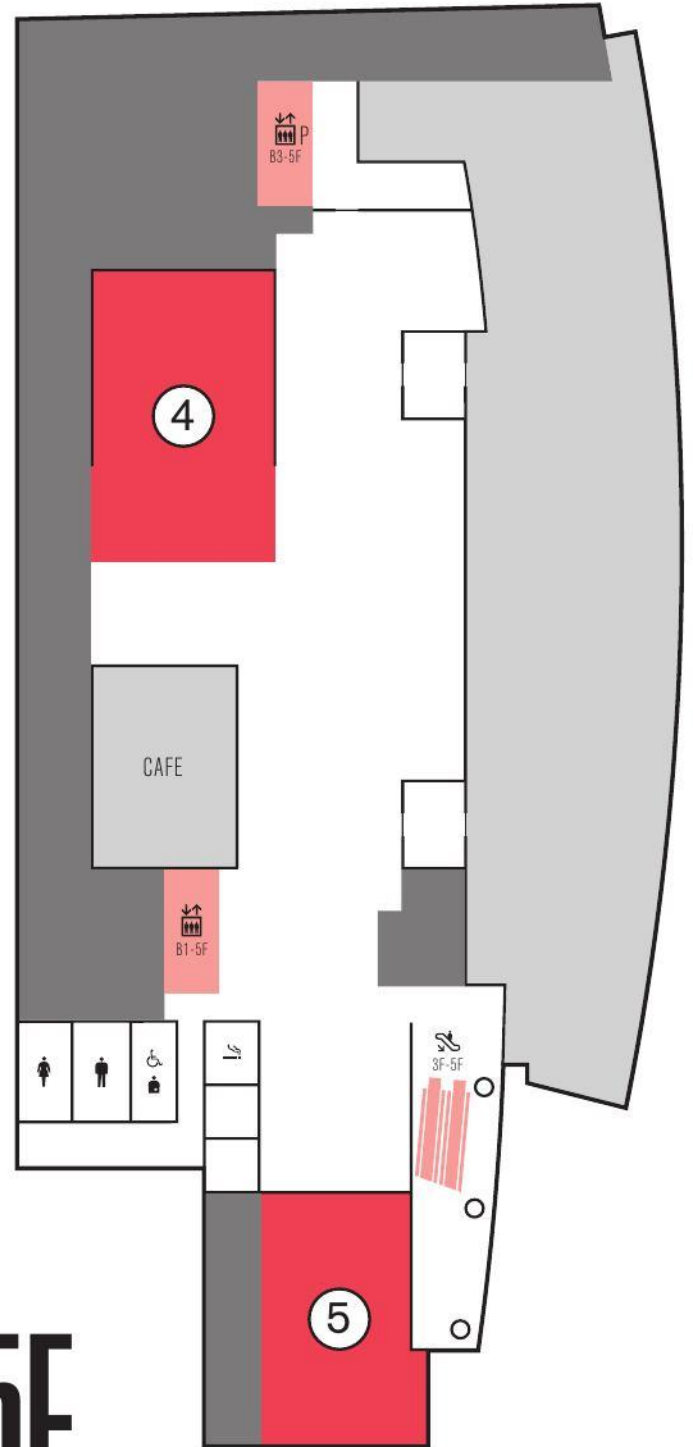
18:45- CLOSING 4F ②

19:00- PARTY 4F ① ② ③

MAP



4F



5F

OPENING SESSION

研究知とイノベーションを接続する エコシステムの構築にむけて

研究知とイノベーションを接続するために、どのように取り組み、どのような視点で関われば良いのか。本セッションでは、研究知がイノベーションの推進につながる重要なアクターとして活躍するために、どのような状況を生み出していくことが必要かについて問い、企業・企業人を含めたそれぞれの立場での関わり方、取り組み方について見出していきます。また、フォーラム全体の基盤となるセッションとして、一日をより密度高く過ごすための視点を得る時間です。

蛭間 芳樹
日本政策投資銀行 / 株式会社SkyDrive
業務企画部 イノベーション推進室 / 社外取締役 調査役

及部 智仁
株式会社 quantum / 東京工業大学
代表取締役社長 / 特任教授

大室 悦賀
長野県立大学 ソーシャル・イノベーション研究科 研究科長

モデレーター
井上 有紀
株式会社エッセンス 取締役

西村 勇哉
株式会社エッセンス 代表取締役

SPEAKERS



蛭間 芳樹

日本政策投資銀行 / 株式会社SkyDrive
業務企画部 イノベーション推進室 /
社外取締役 調査役

2009年、株式会社日本政策投資銀行入行。営業部門、サステナビリティ企画部、経営企画部などを経て、2021年より現職。東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター協力研究員、スタンフォード大学大学院ソーシャルイノベーション・プロフェッショナルコース修了。国連、世銀、世界経済フォーラム、世界防災フォーラム、APEC、内閣府防災、国交省、経産省、環境省など内外専門委員会への参画、ビッグイシュー基金理事、ダイバーシティサッカー協会理事など活動は様々。著書：『責任ある金融』、『ホームレス・ワールドカップ日本代表のあきらめない力』、『日本最悪のシナリオ』、『気候変動リスクとどう向き合うか』など。公益財団法人日本ユースリーダー協会 第4回ユースリーダー賞受賞、世界経済フォーラム グローバル・リスク研究メンバー兼ヤング・グローバルリーダー2015(2020年からYGL Local Championsメンバー)。



大室 悦賀

長野県立大学 ソーシャル・イノベーション
研究科 研究科長

1961年 東京都府中市生まれ。一橋大学大学院商学研究科博士後期課程満期退学。一般企業、行政を経て現職。専門分野はソーシャル・イノベーション、当該分野における理論研究とそれに基づいたアクションリサーチを京都市や長野県で行っている。著書：『サステナブル・カンパニー入門』、『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』、『ソーシャル・ビジネス：地域の課題をビジネスで解決する』、『ケースに学ぶソーシャル・マネジメント』、『ソーシャル・エンタープライズ』『NPOと事業』など。社会的課題をビジネスの手法で解決するソーシャル・ビジネスをベースにNPOなどのサードセクター、企業セクター、行政セクターの3つのセクターを研究対象として、全国各地を飛び回り、アドバースや講演を行っている。



井上 有紀

株式会社エッセンス 取締役

慶応義塾大学大学院卒業後、ソーシャルイノベーションのスクールアウト(拡散)をテーマとして、コンサルティングやリサーチに従事。スタンフォード大学(Center on Philanthropy and Civil Society)、クアモント大学院大学ピーター・ドラッカー・スクール・オブ・マネジメント客員研究員(Visiting Practitioner)を経て、現職。身体からの情報を含めたホリスティックなアプローチによるリーダーシップ教育に携わる。ソーシャル・プレゼンシング・シアター(SPT)シニアティーチャー。NPO法人ミラツク理事。一般社団法人ソーシャル・インバーストメント・パートナーズ理事。現在「スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー(SSIR)」日本版の立ち上げに携わる。



及部 智仁

株式会社 quantum / 東京工業大学
代表取締役社長 / 特任教授

世界トップクラスのベンチャービルダーを目指すスタートアップ・スタジオの(株) quantumを2014年に社内カンパニー化、2016年に法人格として創業。代表取締役就任。博報堂100%子会社化。数多くの大企業との新規事業開発、ベンチャー組成やスタートアップのハンズオン支援を経験。また、大学との産学連携にて機械学習技術を活用したサッカー×AIの研究を行い、2017年にはスポーツデータ×機械学習を専門とする(株) sports AIを創業。サッカーの戦況予測AIをデジタル広告会社に事業売却。博報堂DYホールディングスの社内起業家プログラム(Ad+Venture)や京都大学グローバル起業家教育プログラムなど数多くのアクセラレーターや社内起業プログラムなどでメンター・審査員を歴任するほか、書籍「スタートアップスタジオ(日経BP)の翻訳出版・監修など、起業家支援だけでなく社内起業家、アカデミア起業家の数を多く輩出することを目指し活動する。



西村 勇哉

株式会社エッセンス 代表取締役 /
NPO法人ミラツク 代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立。セクター、職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築と、大手企業の新領域事業開発支援、階層的な未来構想の設計、未来潮流の探索などに取り組む。2021年に株式会社エッセンスを設立。2021年9月に自然科学、社会科学、人文学を領域横断的に扱う先端研究者メディア esse-sense をリリース。知のアクセスを実現する「Knowledge Tech」企業として研究知と社会の接続に取り組む。滋賀県大津市在住、3児の父。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授、大阪大学人間科学研究科後期博士課程(人類学)在籍

10:20-11:20

4F ②

SESSION 1-A

未来に出会う先端研究の 現在とその所在

未来を担う先端的な研究は、どこに行けば出会えるのか。本セッションでは、自然科学、工学、社会科学、人文学それぞれの先端研究と関わる登壇者と共に、先端研究の現在と所在について共有し、またその発展のために求められる取り組みについて意見を交え、企業・企業人が関わるための接点についても見出していきます。また、午後の各セッションの紹介を兼ね、一日の過ごし方を見出す時間です。

大久保 知美
DIST(沖縄科学技術大学院大学)メディア連携セクション マネジャー

渡辺 智秋
JST(国立研究開発法人 科学技術振興機構)ムーンショット型研究開発事業部 広報リーダー

真尾 淑子
東京工業大学 研究・産学連携本部 特任教授・GTIE(GREATER TOKYO INNOVATION ECOSYSTEM)担当/イノベーションデザイン機構 副機構長

安田 洋祐
大阪大学大学院経済学研究科教授 / 株式会社エコノミクスデザイン 共同創業者

モデレーター
西村 勇哉
株式会社エッセンス 代表取締役

SPEAKERS



大久保 知美

DIST(沖縄科学技術大学院大学)
メディア連携セクション マネジャー

パリ第1パンテオン・ソルボンヌ大学及びパリ・ドーフイン大学においてMBA取得。外務省(東京)、NGO(カナダ)等で広報に携わる。中国系PR会社(中国北京)にて顧客担当及びPRプランナーを担当した後、地元の長野でライフスタイル系雑誌の編集を経験し、沖縄に移住して現職。科学技術の話題を一般に伝えるサイエンス・コミュニケーションの世界と出会い、主にメディアリレーションズを通じて科学の意義や魅力を伝える。



渡辺 智秋

JST(国立研究開発法人 科学技術振興機構)ムーンショット型研究開発事業部
広報リーダー

東京工業大学 電子物理工学 修士課程修了後、ソニー株式会社に入社。基礎研究部門を経てクリエイティブ本部広告宣伝部へ。ブランディングからプロダクトマーケティングまで、マス広告からCRM、デジタルメディアの活用まで幅広いマーケティングコミュニケーションに携わる。現在、JST ムーンショット型研究開発事業部に広報リーダーを務める。



真尾 淑子

東京工業大学 研究・産学連携本部
特任教授・GTIE(GREATER TOKYO INNOVATION ECOSYSTEM)担当/イノベーションデザイン機構 副機構長

投資銀行等での金融市場の調査に従事した後、スタートアップへの投資に携ったことがきっかけとなりスタートアップ・エコシステムに関心を持ち2022年よりGTIEに参加する。現在はGTIEにおいてGAPファンドを中心にスタートアップ・エコシステムの形成に取り組む。



安田 洋祐

大阪大学大学院 / 株式会社エコノミクス
デザイン 経済学研究科 教授 / 共同創業者

経済学者 | 大阪大学大学院経済学研究科 教授
1980年東京都生まれ。2002年東京大学卒業。最優秀卒業論文に与えられる大内兵衛賞を受賞し経済学部卒業生総代となる。米国プリンストン大学へ留学して07年Ph.D.(経済学)取得。政策研究大学院大学助教授、大阪大学准教授を経て、22年7月より現職。専門はゲーム理論、マーケットデザイン、産業組織論。American Economic Reviewをはじめ、国際的な経済学術誌に論文を多数発表。20年6月に株式会社エコノミクスデザインを共同で創業し、コンサルタント業務やオンライン教育サービス「ナイトスクール」を運営する。政府の委員やテレビのコメンテーターとしても活動。主な著書に「学校選択制のデザイン ゲーム理論アプローチ」(編著)、「そのビジネス課題、最新の経済学で「すでに解決」しています。」(共著)、「オークション・デザイン ものの値段はこう決める」(監修)など。



西村 勇哉

株式会社エッセンス代表取締役 /
NPO法人ミラツク代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立。セクター、職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築と、大手企業の新領域事業開発支援、階層的な未来構想の設計、未来潮流の探索などに取り組む。2021年に株式会社エッセンスを設立。2021年9月に自然科学、社会科学、人文学を領域横断的に扱う先端研究者メディアesse-senseをリリース。知のアクセスを実現する「Knowledge Tech」企業として研究知と社会の接続に取り組む。滋賀県大津市在住、3児の父。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授、大阪大学人間科学研究科後期博士課程(人類学)在籍

11:30-12:45

4F ②

SESSION 1-B

SPEAKERS



加藤 雅俊

関西学院大学 経済学部 教授

2008年一橋大学で博士号(商学)取得。一橋大学専任講師などを経て、18年から現職。関西学院大学アントレプレナーシップ研究センター長を兼務。専門は産業組織論、企業経済学。アントレプレナーシップやイノベーションに関するテーマで幅広く研究している。近年は、創業から間もない「スタートアップ企業」に関して実証的に研究している。著書に『スタートアップの経済学』(有斐閣)。



越智 敬之

株式会社グランストーリー
代表取締役 / CEO

早稲田大学在学中にWEB制作業を創業。2002年CyberAgent入社。12年間、主に大企業のマーケティング領域におけるデジタルシフトをプロデュース。2012年AOI Pro.経営企画にてグループ再編戦略を担当後、PMI責任者としてグループ会社ビジネス・アーキテクトの経営改革を主導。2015年、IDOM Inc.で新規事業開発・オープンイノベーションプログラムの運営企画や、組織変革に従事したのち、2019年、株式会社グランストーリーを創業。次世代リーダーへの行動変容プログラム「IGNITION」を開発運営した後、2021年にプラットフォーム事業「STORIUM」をリリース。今では400社超のスタートアップ・投資家・事業会社イノベーター・自治体のキーパーソンが登録する新産業創造に特化した国内有数のネットワークインフラとして発展中。



島岡 未来子

早稲田大学研究戦略センター 教授

早稲田大学公共経営研究科博士課程修了(公共経営博士)。2011年、早稲田大学商学大学院WBS研究センター助手、同大学准教授等を経て2021年より現職。文部科学省EDGEプログラム、EDGE-NEXTプログラムの採択を受け、早稲田大学で実施する「WASEDA-EDGE 人材育成プログラム」の運営に携わり2019年より事務局長。



白坂 成功

慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授。東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻修士課程修了後、三菱電機株式会社にて宇宙開発に従事。技術試験衛星VII型(ETS-VII)、宇宙ステーション補給機(HTV)等の開発に参加。特にHTVの開発では初期設計から初号機ミッション完了まで携わる。途中1年8ヶ月間、欧州の人工衛星開発メーカーに駐在し、欧州宇宙機関(ESA)向けの開発に参加。「ここのとり」(HTV: H-II Transfer Vehicle)開発では多くの賞を受賞。内閣府革新的研究開発推進プログラム(ImpACT)のプログラムマネージャーとしてオンデマンド型小型合成開口レーダ(SAR)衛星を開発。2004年度より慶應義塾大学にてシステムズエンジニアリングの教鞭をとる。

大学発スタートアップエコシステムの GROWTH

大学発スタートアップを支えるエコシステムが各地で拡充される中、その仕組みをどのように発展させることが求められるのか。本セッションでは、大学発スタートアップを支えるエコシステムの現状を学び、また、その発展のための視点についてスタートアップエコシステムの経済を専門とする加藤雅俊さんに研究的知見を交えてもらいながら、その実践者・当事者と共に大学発スタートアップエコシステムの未来に対する解像度を高めていきます。

加藤 雅俊
関西学院大学経済学部教授

島岡 未来子
早稲田大学研究戦略センター教授

白坂 成功
慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授

越智 敬之
株式会社グランストーリー 代表取締役 / CEO

モデレーター
井上 有紀
株式会社エッセンス 取締役



井上 有紀

株式会社エッセンス 取締役

慶應義塾大学大学院卒業後、ソーシャルイノベーションのスケールアウト(拡散)をテーマとして、コンサルティングやリサーチに従事。スタンフォード大学(Center on Philanthropy and Civil Society)、クレアモント大学院大学ピーター・ドラッカー・スクール・オブ・マネジメント客員研究員(Visiting Practitioner)を経て、現職。身体からの情報を含めたホリスティックなアプローチによるリーダーシップ教育に携わる。ソーシャル・プレゼンシング・シアター(SPT)シニアティーチャー。NPO法人ミラツク理事。一般社団法人ソーシャル・インバーストメント・パートナーズ理事。現在『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー(SSIR)』日本版の立ち上げに携わる。

11:30-12:45

4F ①

LUNCH SESSION A

サントリー生命科学財団セッション 新領域の創出のために 必要なエコシステムを問う

新たな社会の可能性を見出すために求められる新領域の創出。分野を超え、また未知への挑戦によって生まれる新たな領域での研究を支えるために求められる周辺環境と状況はどのようなものなのでしょうか。本セッションでは、研究者として新領域を切り開く方々とその研究を資金面を含めて支える方々をお迎えし、新領域の創出が実現するための越えるべき課題とそのアプローチについて共に検討していきます。

砂川 玄志郎
理化学研究所 冬眠生物学研究チーム チームリーダー

丸山 美帆子
大阪大学 高等共創研究院 教授

豊福 雅典
筑波大学 生命環境系 准教授

渡邊 文隆
(公財)京都大学IPS細胞研究財団 社会連携室長

モデレーター
内田 雅昭
公益財団法人サントリー生命科学財団 常務理事 / 事務局長

西村 勇哉
株式会社エッセンス代表取締役 / NPO法人ミラツク代表理事

SPEAKERS



砂川 玄志郎

理化学研究所 冬眠生物学研究チーム
チームリーダー

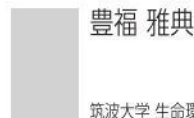
福岡県生まれ。2001年より小児科医として救急医療・麻酔・集中治療に従事。京都大学大学院医学研究科にて博士(医学)取得。大阪赤十字病院、国立成育医療センターで医師として勤務。2006年から「なぜ動物が眠るのか」という問いに答えるため、生理学・遺伝学・情報工学を組み合わせて個体レベルのシステム生物学を実践。2015年から理化学研究所 網膜再生医療研究開発プロジェクトでマウスを用いた冬眠研究を開始。2022年から理化学研究所 冬眠生物学研究チームのチームリーダーとして研究室を主宰。サントリーSunRISE(生命科学研究者支援プログラム)フェロー



丸山 美帆子

大阪大学 高等共創研究院 教授

栃木県出身。東北大学理学部 地球惑星物質科学科卒業後、同大学 大学院理学研究科 地球専攻博士課程修了。東北大学 大学院理学研究科 日本学術振興会特別研究員(DC1)を振り出しに、大阪大学工学研究科 特任研究員・特任助教、北海道大学 低温科学研究所研究員、大阪大学レーザー科学研究所 特任研究員、日本学術振興会特別研究員(RPD)、京都府立大学生命科学研究科 特任講師を経て2020年4月から現職。大阪サクヤヒメSDGs研究会 働き方部会 メンバー、日本結晶成長学会 国際交流委員、文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術専門調査員、大阪大学大学院工学研究科男女共同参画WGメンバー。2018年に第11回賞生堂 女性研究者サイエンスグラントを受賞。



豊福 雅典

筑波大学 生命環境系 准教授

2008年日本学術振興会特別研究員、2009年筑波大学大学院生命環境科学研究科生物機能科学専攻博士後期課程修了。博士(農学)。2010年上原記念生命科学財団海外ポストドクトラルフェロー(チューリッヒ大学)、2011年筑波大学生命環境科学研究科研究員を経て、2012年より同大学生命環境系助教、2018年より現職。



渡邊 文隆

(公財)京都大学IPS細胞研究財団
社会連携室長

中学三年時にがんで父親を亡くし、あしなが育英会の奨学金で高校・大学へ進学。環境ビジネス企業のマーケティング担当から、2013年に京都大学IPS細胞研究所 国際広報室に着任。寄付募集担当者として勤務。2020年から(公財)IPS財団の寄付募集活動に従事。職務の傍ら、京都大学大学院経営管理教育部 経営科学専攻(博士後期課程)にて寄付のマーケティングを研究。



内田 雅昭

公益財団法人サントリー生命科学財団
常務理事 / 事務局長

公益財団法人サントリー生命科学財団常務理事 / 事務局長。1985年、サントリー株式会社(現サントリーホールディングス株式会社)に入社。以来、新商品開発、ビール醸造科学や嗜好科学に関する基盤研究・新規技術開発、ビール工場や食品工場での製造マネジメントなどに33年間にわたり従事。サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社上席研究員を経て、2019年より現職。1985年京都大学大学院工学研究科修士課程修了。2000年京都大学より、工学博士を授与。1997年と2001年に、エリック・ニーン記念賞(Eric Kneen Memorial Award)をアメリカ醸造化学者学会(The American Society of Brewing Chemists)より受賞。



西村 勇哉

株式会社エッセンス代表取締役 /
NPO法人ミラツク代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立。セクター、職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築と、大手企業の新領域事業開発支援、階層的な未来構想の設計、未来潮流の探索などに取り組む。2021年に株式会社エッセンスを設立。2021年9月に自然科学、社会科学、人文学を領域横断的に扱う先端研究者メディア esse-sense をリリース。知のアクセスを実現する「Knowledge Tech」企業として研究知と社会の接続に取り組む。滋賀県大津市在住、3児の父。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授、大阪大学人間科学研究科後期博士課程(人類学)在籍

12:55-13:55

4F ②

LUNCH SESSION B

LabBaseセッション

研究者のポテンシャルを解き放つ 新たな道

研究者が持つポテンシャルを引き出す道は、今世の中に示されている選択肢だけで全てなのでしょうか。本セッションでは、研究者としてのキャリアを拡張し、研究者が歩む道を広げるために、企業、NPO、支援者、スタートアップそれぞれの立場から見える実践的な可能性について、自信が研究の道にも親しんだ実践者をお招きし、その具体的な可能性と潜在的課題について共に検討していきます。

中西 裕子
資生堂 R&D戦略部 グループマネージャー

笈 裕介
NPO法人issue+design 代表理事

岡田 弘太郎
編集者 / 一般社団法人デザイン代表理事

モデレーター
加茂 倫明
株式会社LabBase 代表取締役

篠田 真貴子
エール株式会社 取締役

SPEAKERS



中西 裕子

資生堂 R&D戦略部 グループマネージャー
物質理学専攻(化学系)修士課程修了後、資生堂へ入社。スキンケア商品の処方開発研究、化粧品基剤の基礎研究、デザイン思考的アプローチを用いた研究テーマ設定を経て、現在は、資生堂のR&D戦略、新規研究の企画立案、資生堂オープンイノベーションプログラムfibonaのプロジェクトリーダー



笈 裕介

NPO法人issue+design 代表理事
一橋大学社会学部卒業。東京大学大学院工学系研究科修了(工学博士)。慶應義塾大学大学院特任教授。2008年ソーシャルデザインプロジェクトissue+design を設立。以降、社会課題解決のためのデザイン領域の研究、実践に取り組む。2017年より認知症未来共創ハブの設立メンバーとして、認知症のある方が暮らしやすい社会づくりの活動に取り組む。代表プロジェクトに、東日本大震災のボランティアを支援する「できますゼッケン」、妊娠・出産・育児を支える「親子健康手帳」、300人の地域住民とともに未来を描く「みんなで作る総合計画」、認知症とともにより良く生きる未来をつくる「認知症未来共創ハブ」、他。GOOD DESIGN AWARD 2019 BEST100「SDGs de 地方創生」カードゲーム開発者。日本計画行政学会、学会奨励賞、グッドデザイン賞、D&AD(英)他受賞多数。著書に「地域を変えるデザイン」、「ソーシャルデザイン実践ガイド」、「人口減少×デザイン」、「持続可能な地域のつくりかた」、「認知症世界の歩き方」、「認知症世界の歩き方 実践編」など。



岡田 弘太郎

編集者 / 一般社団法人デザイン代表理事
『WIRED』日本版エディター。クリエイティブ集団「PARTY」パートナー。スタートアップを中心とした複数の企業の編集パートナー。アーティスト・なみちえのマネジメントを担当。研究者やアーティスト、クリエイター、起業家などの新しい価値をつくる人々と社会をつなげるための発信支援や、資金調達モデル構築に取り組む。1994年東京生まれ。慶應義塾大学にてサービスデザインを専攻。



加茂 倫明

株式会社LabBase 代表取締役
灘中学校灘高等学校卒業。東京大学工学部4年休学中。高校時代から起業を志し、国内外3社での長期インターンを経て、2016年9月に株式会社POLを創業。2022年9月、株式会社LabBaseに改称。LabTech(研究×Technology)領域で研究者や理系学生の課題を解決して科学と社会の発展を加速すべく、研究を頑張る理系学生と企業をつなぐスカウトサービス「LabBase就職」など研究領域に根差す事業を運営している。



篠田 真貴子

エール株式会社 取締役
慶應義塾大学経済学部卒業。米ジョンズ・ホプキンス大国際関係論修士、ペンシルバニア大オウートン校MBA。エール株式会社取締役。社外人材によるオンライン1on1を通じて、組織改革を進める企業を支援している。2020年3月のエール参画以前は、日本長期信用銀行、マッキンゼー、ノバルティス、ネスレを経て、2008年~2018年ほぼ日取締役CFO。退任後「ジョブレス」期間を約1年設けた。慶應義塾大学経済学部卒、米ペンシルバニア大オウートン校MBA、ジョンズ・ホプキンス大国際関係論修士。人と組織の関係や女性活躍に関心を寄せ続けている。「LISTEN——知性豊かで創造力がある人になれる」「ALLIANCE アライアンス——人と企業が信頼で結ばれる新しい雇用」監訳。

12:55-13:55

4F ①

LUNCH SESSION C

ローンディールセッション 越境による研究知とイノベーションを 促進するエコシステム

研究と企業・組織をつなぐ場としての研究開発型スタートアップ。本セッションでは、スタートアップへの越境的な出向に赴く側・受け入れる側として異なる立場で携わった3名の実践者（企業、官公庁、スタートアップ）をお招きし、その実践と可能性について共有し、また、スタートアップエコシステムの経済学的観点からの読み解きによって、その価値を共に検討していきます。

塩見 泰央
農水省 大臣官房 文書課 法令審査官

楠 慧三
アサヒクオリティアンドイノベーション醸造科学研究所第二部 シニアマネージャー

山元 浩平
株式会社コピー 代表取締役

加藤 雅俊
関西学院大学 経済学部 教授

モデレーター
原田 未来
株式会社ローンディール 代表取締役社長

北嶋 友香
NPO法人ミラック / タクトピア株式会社 研究員 / ラーニングデザイナー

SPEAKERS



塩見 泰央

農水省 大臣官房 文書課 法令審査官

2013年司法修習終了後、2014年農林水産省入省。経営局、農村振興局を経て、水産庁で漁業法改正業務に従事。2021年7月から2022年3月まで、株式会社ローンディールの企業間レンタル移籍プログラムにより、次世代の水産養殖システムの構築を目指すリージョナルフィッシュ株式会社において研修。経営企画部の一員として、取材対応等の広報業務、新商品販売業務、契約関係業務等に従事。移籍終了後デジタル庁への出向を経て、2023年4月から現職。趣味はジムでのトレーニング。



楠 慧三

アサヒクオリティアンドイノベーション醸造科学研究所第二部 シニアマネージャー

2010年、アサヒビール株式会社入社。研究開発部門にてビール酵母の育種・解析やビール醸造技術の開発を行う。2020年よりアサヒグループ全体の研究開発および新規事業創出に取り組むアサヒクオリティアンドイノベーション株式会社(AQI)に出向、グローバル領域でのノンアルコールビール製造技術や新規研究開発テーマの立案などに従事。2022年10月より株式会社ローンディールの企業間レンタル移籍プログラムにより、コミュニケーションロボット「ユニボ」やAI電話の開発など対話型AIプラットフォーム「Unirobot cloud」を軸とした事業の多角化を進めるユニボ株式会社に移籍し、営業チームの一員として資金調達や新規商材の立上、新規事業の開発に挑む。2023年10月にAQIに復帰予定。専門は遺伝子工学および解析(ウェット)・バイオインフォマティクス(ドライ)。二児の父で趣味はプログラミング、音楽鑑賞、テニス、ピアノ、ギター。



山元 浩平

株式会社コピー 代表取締役

東京大学大学院情報理工学系研究科修士課程修了。同博士課程中退。共同研究員としてYahoo!Japan研究所、仏国立情報学自動制御研究所(Inria)にて、人工知能(マルチモーダル深層学習)の研究に従事。推薦システムの最高峰国際会議RecSysのワークショップや、Webの最高峰国際会議WWW等にて研究発表を行う。その後、東大やInriaの同僚と共にミッションクリティカル領域向けのAIソリューションを提供するコピーを創業、代表取締役就任。2019年に日本発スタートアップとして初めてパリのStationFiに採択され、拠点を開設



加藤 雅俊

関西学院大学 経済学部 教授

2008年一橋大学で博士号(商学)取得。一橋大学専任講師などを経て、18年から現職。関西学院大学アントレプレナーシップ研究センター長を兼務。専門は産業組織論、企業経済学。アントレプレナーシップやイノベーションに関するテーマで幅広く研究している。近年は、創業から間もない「スタートアップ企業」に関して実証的に研究している。著書に『スタートアップの経済学』(有斐閣)。



原田 未来

株式会社ローンディール 代表取締役社長

2001年、株式会社ラクーン(現ラクーンホールディングス、東証プライム)入社。部門長職を歴任し同社の上場へ貢献。2014年、株式会社カカコムに転職し、新規事業開発。自身の経験から「会社を辞めずに外を見る経験」の重要性に気づき、「レンタル移籍」事業を構想し、2015年に株式会社ローンディールを設立。経済産業省や経団連の主宰する検討会や「人材育成」「大企業・スタートアップ連携」等に関するタスクフォース・検討会においても委員を務めるなど、自社事業の範囲にとどまらず「日本的な人材流動化」を促進するために活動



北嶋 友香

NPO法人ミラック / タクトピア株式会社 研究員 / ラーニングデザイナー

米国DePauw Universityより平和学学士号を授与。2018年から現在までタクトピア株式会社にてラーニングデザイナーとして全国各地の中高と協働、1,000名以上の中高生にアントレプレナーシップ研修とアートプログラムを届ける。2020年よりNPO法人ミラック研究員を兼任。

12:55-13:55

4F ③

SESSION 2-A

研究知と共創する 新たな産学連携の可能性

技術開発的な共同研究以外に、企業と研究が共創していく産学連携としてどのような取り組み方・関わり方がありえるのか。本セッションでは、人材交流に止まることなくより積極的に産学での組織間の連携に取り組む異なる立場の実践者との対話を通じて意見を交え、その現状と可能性を共有していきます。

藤原留美子
株式会社資生堂 みらい開発研究所 グループマネージャー

西 瑠衣子
三井不動産株式会社 ソリューションパートナー本部 産学連携推進部 統括

稲垣 正祥
京セラ株式会社 非常勤理事

林 靖人
信州大学副学長(エンロールメント・マネジメント担当)

モデレーター
西村 勇哉
株式会社エッセンス 代表取締役

SPEAKERS



藤原 留美子

株式会社資生堂 みらい開発研究所
グループマネージャー

東京都出身。筑波大学卒業後、1993年株式会社資生堂に入社。美白化粧品の有効成分の研究開発の業務経験を20年以上担当した後、現在は皮膚科領域を中心とした産学連携や研究助成等の学術活動、サンスクリーン製品に関する業界活動を担う。資生堂 女性研究者サイエンスグラントの運営により、女性研究者や自社研究員のネットワーク形成を支援し、D&I活動を推進。



西 瑠衣子

三井不動産株式会社 ソリューション
パートナー本部 産学連携推進部 統括

東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了、2006年三井不動産株式会社入社。不動産証券化事業、商業施設事業、住宅事業の業務経験を経て、東京大学との産学協創「三井不動産東大ラボ」の立ち上げに従事。2020年から開始し、イノベーション創出を目指した産学連携を推進。



稲垣 正祥

京セラ株式会社 非常勤理事

静岡県出身。立教大学理学部物理学科卒。1981年、京都セラミック(株)入社。総合研究所にて、セラミック製品、シミュレーション技術の開発に従事。2005年、自動車部品開発部門にて車載関連の開発に従事。07、自動車部品開発部長に主任。13年、執行役員研究開発本部長に就任。17年より、執行役員上席 研究開発本部長



林 靖人

信州大学 副学長(エンロールメント・
マネジメント担当)

1978年愛知県名古屋市生まれ。幼少期～中学は「瀬戸市」で育ち、高校は名古屋市・瀬戸市に隣接する「尾張旭市」へ通う。大学から信州大学への進学に伴い、長野県・松本市へ。現在は、結婚を併せて住居を山梨県に移し、「韮崎市」在住。

信州大学 人文学部 人間情報学科 卒業、信州大学大学院 人文科学研究科 地域文化専攻修了、信州大学大学院総合工学系研究科修了(博士:学術)。専門は認知心理学だったが、徐々に実践的活動に興味に移り、測定中心の心理学から創り出すを主眼とする感性工学へ。現在は、モノも含めて価値の本質となる「ことづくり」に興味を持ち、「感性情報学」に傾倒する。研究テーマは「ブランド」

上記と平行して、修士課程在学中から大学発ベンチャーの立ち上げに参画し、社会調査や行政計画等の策定に従事。特に観光振興や交通問題を中心に、EBPM (Evidence Based Policy Making) の重要性を2013年ごろから主張し、データサイエンスに基づく観光プランや交通計画に取り組む。しかし、自身としての経験知は蓄積される現場において、人材育成の困難さに気づき、研究・教育機関での仕事を求めて大学へ移る。

現在、信州大学産学官連携・地域総合戦略推進本部長、キャリア教育・サポートセンター副センター長として研究・教育に関わりながら、地域貢献活動として地域の地方創生総合戦略等の策定や地域活性化活動に関わる。



西村 勇哉

株式会社エッセンス 代表取締役 /
NPO法人ミラツク 代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立。セクター、職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築と、大手企業の新領域事業開発支援、階層的な未来構想の設計、未来潮流の探索などに取り組む。2021年に株式会社エッセンスを設立。2021年9月に自然科学、社会科学、人文学を領域横断的に扱う先端研究者メディア esse-sense をリリース。知のアクセスを実現する「Knowledge Tech」企業として研究知と社会の接続に取り組む。滋賀県大津市在住、3児の父。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授、大阪大学人間科学研究科後期博士課程(人類学)在籍

14:00-15:15

4F ③

SESSION 2-B

エッセンスセッション

先端研究のインパクトに出会う 1

本セッションは、各登壇者によるピッチプレゼンテーションを通じて、そのインパクトに出会う時間です。エッセンスセッションでは、エッセンスの記事群から分野を超えて衝撃的な驚きを生み出す研究者にご登壇いただき、その研究の現在と未来についてお話を伺います。

モデレーター
青木志保子
Wholeness Lab 代表

人工冬眠技術の現在地点

砂川玄志郎
理化学研究所 生命機能科学研究センター 冬眠生物学研究チーム チームリーダー

音楽の未来はどこから生まれるのか

大黒達也
東京大学大学院 情報理工学系研究科・次世代知能科学研究センター 特任講師

隕石学の視点で尿路結石から人体と健康を知る

丸山美帆子
大阪大学 高等共創研究院 教授

半導体増感型発電によるエネルギーの未来

松下祥子
東京工業大学 物質理工学院 准教授 / 株式会社alleThermo 代表取締役

陸上養殖がつかなく、農業と水産が一体化する食糧生産

竹村明洋
琉球大学理学部教授 / 亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構構成員

SPEAKERS



砂川玄志郎

理化学研究所 生命機能科学研究センター
上級研究員 / 小児科医

福岡県生まれ。2001年より小児科医として救急医療・麻酔・集中治療に従事。京都大学大学院医学研究科にて博士(医学)取得。大阪赤十字病院、国立成育医療センターで医師として勤務。2006年から「なぜ動物が眠るのか」という問いに答えるため、生理学・遺伝学・情報工学を組み合わせて個体レベルのシステム生物学を実践。2015年から理化学研究所 網膜再生医療研究開発プロジェクトでマウスを用いた冬眠研究を開始。2022年から理化学研究所 冬眠生物学研究チームのチームリーダーとして研究室を主宰。サントリー-SunRISE(生命科学研究者支援プログラム)フェロー



大黒 達也

東京大学大学院 情報理工学系研究科・
次世代知能科学研究センター 特任講師

1986年、青森県八戸市生まれ。2016年、東京大学大学院医学系研究科内科学専攻医学博士課程を修了。オックスフォード大学医科学部実験心理学部、マックスプランク研究所神経心理学部、ケンブリッジ大学教育神経科学研究所の研究員を経て、2020年4月より現職。音楽や言語がどのように学習されるのかについて、神経科学と計算論的手法を用い、領域横断的に研究。神経生理データから脳の「創造性」をモデル化し、創造性の起源とその発達の過程を探っている。また、それらの研究結果をもとに新たな音楽理論を構築し、現代音楽の制作にも取り組んでいる。著書に『芸術的創造は脳のどこから生まれるか?』『AI時代に「自分の才能を伸ばす」ということ』『音楽する脳 天才たちの創造性と超絶技巧の科学』、監修本に『GOOD VIBRATIONS 最高の体調をつくる音楽の活用法』などがある。



丸山 美帆子

大阪大学 高等共創研究院 教授

栃木県出身。東北大学理学部 地球惑星物質科学科卒業後、同大学 大学院理学研究科 地学専攻博士課程修了。東北大学 大学院理学研究科 日本学術振興会特別研究員(DO1)を振り出しに、大阪大学工学研究科 特任研究員・特任助教、北海道大学 低温科学研究科研究員、大阪大学レーザー科学研究科 特任研究員、日本学術振興会特別研究員(RPD)、京都府立大学生命科学研究科 特任講師を経て2020年4月から現職。大阪サクヤヒメSDGs研究会 働き方部会 メンバー、日本結晶成長学会 国際交流委員、文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術専門調査員、大阪大学大学院工学研究科男女共同参画WGメンバー。2018年に第11回再生堂 女性研究者サイエンスグラントを受賞。



松下 祥子

東京工業大学 物質理工学院 准教授

1996年東京大学工学部卒業。2000年東京大学大学院工学系研究科 応用化学専攻 博士後期課程修了。東京大学で藤嶋昭教授の指導のもと自己組織化ナノ粒子構造の作製と応用を研究。2001年、理化学研究所にて國武豊喜教授グループにてポストドク研究員となり、研究対象をフォトニック結晶へと広げた。日本大学講師、助教授を経て、2010年より東京工業大学物質理工学院材料系准教授に就任。半導体増感型熱利用発電の研究に取り組んでいる。



竹村 明洋

琉球大学 理学部 / 亜熱帯島嶼科学超域
研究推進機構 教授 / 機構長

琉球大学理学部海洋自然科学科教授、時間生物研究室。1989年北海道大学大学院水産学研究所博士後期課程修了後、拠点を北海道から沖縄へ。1990年琉球大学熱帯海洋科学センターに助手として勤務。1996年から1年間プリティッシュコロロンビア大学客員研究員としてカナダへ。主な研究テーマはサンゴ礁魚類の繁殖特性の解明や魚類の卵黄形成機構。現在は海の世界保全も視野に入れながら産官学の協働で陸上養殖の研究にも取り組む。



青木 志保子

Wholeness Lab 代表

専門は環境学。環境負荷の定量化(LCA)と次世代のライフスタイルを創造するWholeness Lab代表。これまでに大手企業やスタートアップのサステナビリティ事業創造のアドバイスほか、NPOでの講演を複数実施。東京大学大学院新領域創成科学研究科環境システム学修士課程(環境学修士)修了後、地方自治体職員、NGO職員、NPO職員、大学研究者を経て2021年にWholeness Labとして独立(独立研究者)。現在、東京大学大学院新領域創成科学研究科環境システム学 後期博士課程在籍。その他、国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 主任研究員(兼任)、特定非営利活動法人ミラツク 研究員(非常勤)、等。2児の母。

14:00-15:15

4F ②

SESSION 2-G

GTIEセッション 研究発スタートアップの インパクトに出会う1

本セッションは、各登壇者によるピッチプレゼンテーションを通じて、そのインパクトに出会う時間です。GTIEセッションでは、全国7ブロックから集まった大学発スタートアップを担う研究者たちの研究とその事業についてお話を伺います。

モデレーター

真尾 淑子

東京工業大学研究・産学連携本部 特任教授 / イノベーションデザイン機構 副機構長

「渡す」「溶かす」の間に「分ける」技術で環境問題を立ち向かう by GTIE

所 千晴

早稲田大学 理工学術院創造理工学部教授

繊維、高分子、炭素材料、複合材料 by Tongali

入澤 寿平

岐阜大学 工学部 化学・生命工学科物質化学コース 准教授

微細藻類由来のバイオ燃料生産を指向した量子ドットフィルムの開発 by MASP

森川 結策

山形大 大学院理工学研究科博士前期課程2年

新規ゲノム編集T1Dの基盤技術開発と実用化 by GTIE

刑部 祐里子

東京工業大学 生命理工学院教授

SPEAKERS



所 千晴

早稲田大学 理工学術院創造理工学部 教授

1998年早稲田大学理工学部資源工学科卒業、2000年東京大学工学系研究科地球システム工学修士課程修了、2003年同・博士課程修了。工学博士。2004年早稲田大学理工学部助手、2007年早稲田大学理工学術院専任講師、2009年より同准教授、2015年より現職。専門は資源循環工学、粉体工学。



入澤 寿平

岐阜大学 工学部 化学・生命工学科
物質化学コース 准教授

東工大卒(博士(工学)取得)。博士課程中に経営を理解した技術者を育成するプロジェクトマネジメントコースを修了した際に、起業に興味を持つ。2021年度名古屋大学においてJST SCORE事業GAPファンドに採択され、2022年4月に起業。岐阜大学にてFuture Fiber Factoryの工場長を務めながら、先端繊維材料の事業化を進めている。



森川 結策

山形大 大学院理工学研究科
博士前期課程2年

山形大学大学院理工学研究科。2022年山形大学工学部卒業、2024年山形大学理工学研究科博士前期課程修了予定、専攻は材料化学。



刑部 祐里子

東京工業大学 生命理工学院 教授

1996年 博士(農学、東京農工大)、2006年 東京大学大学院農学生命科学研究科 講師、2020年 徳島大学生物資源産業学部 教授を経て、2021年 東京工業大学生命理工学院 教授(現職)。その間、独立行政法人国際農林水産業研究センター、理化学研究所などでも研究員、客員主幹研究員として植物分子生物学研究に携わる。2006年ごろより様々な生物に活用可能なゲノム編集技術開発に取り組んでおり、近年は新規ゲノム編集T1Dの医療応用研究にも展開を広げている。専門:分子生物学、植物分子生理学。



真尾 淑子

東京工業大学 研究・産学連携本部 /
イノベーションデザイン機構 特任教授 /
副機構長

投資銀行等での金融市場の調査に従事した後、スタートアップへの投資に携ったことがきっかけとなりスタートアップ・エコシステムに関心を持ち2022年よりGTIEに参加する。現在はGTIEにおいてGAPファンドを中心にスタートアップ・エコシステムの形成に取り組む。

14:00-15:15

5F ⑤

SESSION 2-D

“ムーンショット”が描く インパクトと未来に出会う

本セッションは、各登壇者によるショートプレゼンテーションを通じて、ムーンショットプロジェクトのインパクトと未来に出会う時間です。

セッションでは、各登壇者のプレゼンテーションに加え、登壇者3名によるパネルディスカッションを行い、研究知と共に描く未来社会の可能性についてお話を伺います。

モデレーター

隅屋 輝佳

一般社団法人Pnika 代表理事

ムーンショット目標③ 2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現

牛久 祥孝

オムロンサイニックスエックス株式会社 プリンシパルインベスティゲーター

ムーンショット目標⑥ 2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現

山本 剛

日本電気株式会社 セキュアシステムプラットフォーム研究所 主席研究員

ムーンショット目標⑦ 2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現

熊谷 誠慈

京都大学人と社会の未来研究院准教授

SPEAKERS

牛久 祥孝



オムロン サイニックスエックス株式会社
プリンシパルインベスティゲーター

オムロン サイニックスエックス株式会社 プリンシパル
インベスティゲーター

2014年 東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程
修了、NTTコミュニケーション科学基礎研究所入所。
2016年に東京大学情報理工学系研究科講師を経て、
2018年10月よりオムロン サイニックスエックス株式会
社のプリンシパルインベスティゲーターに就任。また同
時に2019年より、株式会社Ridge-iのChief Research Officer
に就任し、現在に至る。主として画像キャプション生成
など機械学習によるクロスメディア理解の研究に従事。

山本 剛



日本電気株式会社 セキュアシステム
プラットフォーム研究所 主席研究員

2001年3月、東京大学大学院工学系研究科物理学専攻
博士課程修了(工学博士)

2001年4月: NEC入社、中央研究所に配属

2009年8月~2010年7月: カリフォルニア州立大学サン
タバーバラ校客員研究員

現兼務先: 産業技術総合研究所、筑波大学、東京理科大学、
理化学研究所

熊谷 誠慈



京都大学 人と社会の未来研究院 准教授

1980年広島生まれ。京都大学大学院博士課程修了、文
学博士。京都大学白眉センター助教、京都女子大学発
達教育学部専任講師を経て、2013年4月より京都大学こ
ころの未来研究センター上廣こころ学研究部門特定准
教授。2017年4月より同研究部門長。2018年9月より
ウィーン大学ヌマタ教授を兼任(〜同12月)。2020年4月
より京都大学こころの未来研究センター准教授。2022
年4月より京都大学人と社会の未来研究院准教授。専門
は仏教学(インド・チベット・ブータン)およびボン教研
究。著書にThe Two Truths in Bon (Kathmandu: Vajra
Publications, 2011)、Revisiting Tibetan Religion and
Philosophy (共編著, Paris: Centre National de la Recherche
Scientifique, 2011)、Bhutanese Buddhism and Its Culture
(編著, Kathmandu: Vajra Publications, 2014)、Buddhism,
Culture and Society in Bhutan (編著, Kathmandu: Vajra
Publications, 2018)など。

隅屋 輝佳



一般社団法人Pnika 代表理事

1987年生まれ、東京都出身。上智大学卒業後、ベン
チャー企業、青年海外協力隊でのウガンダ勤務を経
て、慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメン
ト研究科修了。イノベーターが行政や企業、学識者、市
民とつながり、共同で法制度の設計を行えるようにす
るプラットフォームPnikaを2019年に設立し、代表理事
を務める。

14:00-15:15

5F ④

SESSION 2-E

エコノミクスデザインセッション 先端経済学のインパクトに出会う1

本セッションは、各登壇者によるレクチャーとディスカッションを通じて、そのインパクトに出会う時間です。エコノミクスデザインセッションでは、企業との連携にも積極的に携わる先駆的な経済学者をお招きし、その背景となる研究知を学び、またその実践が生み出す企業価値の可能性についてお話を伺います。

市場創造のメガマーケティング

西本 章宏
関西学院大学商学部教授

データでヒトは動くのか? -影響力のピープルアナリティクス-
鹿内 学
株式会社シンギュレイト代表取締役

モデレーター
安田 洋祐
大阪大学大学院経済学研究科教授 / 株式会社エコノミクスデザイン共同創業者

ディスカッションテーマ
「行動変容を促す」

このセッションでは、「経済学のビジネス活用」をテーマにエコノミクスデザインの経済学オンラインスクール「The Night School」に過去登壇いただきました講師をお呼びしてひとつのテーマを複数の視点で深ぼっていきます。

日々、ヒトは多くの意思決定をしています。自らの意思決定は、様々な外部環境・要因によって変化しています。では、どのように行動変容は起こるのか?

このセッションでは、企業の営業活動の中心の一つである「マーケティング」の観点と企業成長の要でもある「人事」的視点を中心に議論を進めていきます。

SPEAKERS



西本 章宏

関西学院大学 商学部 教授

1983年、兵庫県三田市出身。2005年に関西学院大学商学部を早期卒業。2007年に関西学院大学大学院商学研究科を修了後、日産自動車国内マーケティング本部宣伝部にて広告宣伝活動に従事。その後、慶應義塾大学大学院経営管理研究科(博士:経営学)、小樽商科大学商学部准教授、カリフォルニア大学パークレー校ハース経営大学院客員研究員などを経て、2021年から関西学院大学商学部教授。専門はマーケティング戦略、マーケティング・サイエンス、消費者行動分析。主な著書は「外部マーケティング資源としての消費者行動 - 市場の異質性から競争優位を獲得する」(有斐閣)や「競争を味方につけるマーケティング - 脱コモディティ化のための新発想」(共著、有斐閣)、「メガマーケティングによる市場創造戦略」(共著)。



鹿内 学

株式会社シンギュレイト 代表取締役

博士(理学)。株式会社シンギュレイト代表。京都大学などの研究機関で10年ほど脳活動画像データ、生体データの計測・分析をおこなう基礎研究に従事。現在、働く中でのコミュニケーション・データから関係性に注目した次世代ピープルアナリティクスの事業化にとり組み、働く組織の科学と実用をめざす。代表を務めるシンギュレイトでは1 on 1や会議で利用できる可視化ツールを提供中。情報量規準が好き、サッカー好き、漫画好き。



安田 洋祐

大阪大学大学院 / 株式会社エコノミクスデザイン 経済学研究科 教授 / 共同創業者

経済学者 | 大阪大学大学院経済学研究科 教授
1980年東京都生まれ。2002年東京大学卒業。最優秀卒業論文に与えられる大内兵衛賞を受賞し経済学部卒業生総代となる。米国プリンストン大学へ留学して07年Ph.D.(経済学)取得。政策研究大学院大学助教授、大阪大学准教授を経て、22年7月より現職。専門はゲーム理論、マーケットデザイン、産業組織論。American Economic Reviewをはじめ、国際的な経済学術誌に論文を多数発表。20年6月に株式会社エコノミクスデザインを共同で創業し、コンサルタント業務やオンライン教育サービス「ナイトスクール」を運営する。政府の委員やテレビのコメンテーターとしても活動。主な著書に「学校選択制のデザイン ゲーム理論アプローチ」(編著)、「そのビジネス課題、最新の経済学で「すでに解決」しています。」(共著)、「オークション・デザイン もの値段はこう決める」(監修)など。

14:00-15:15

4F ①

SESSION 3-A

企業価値に生きる リベラルアーツと研究知

企業価値に生きるリベラルアーツとは何か。このシンプルな問いに対して、大学、企業それぞれの視点で取り組んできた実践者の方々をお招きしました。

本セッションでは、個人の研鑽の範囲に留められがちなリベラルアーツの実践を企業として取り組む意味とその企業価値へのつながりについて、異なる立場の実践者との対話を通じて意見を交え、その現状と可能性を共有していきます。

高梨 直紘
東京大学 エグゼクティブ・マネジメント・プログラム室 特任准教授

中間 真一
株式会社ヒューマンリソース研究所代表取締役社長 兼 研究所長

占部 まり
宇沢国際学館 取締役 / 内科医

矢野 正也
丸善雄松堂株式会社 / 丸善CHIホールディングス 代表取締役社長 / 取締役

岩井 睦雄
JT(日本たばこ産業株式会社) 取締役副会長

モデレーター
西村 勇哉
株式会社エッセンス 代表取締役

SPEAKERS



高梨 直紘

東京大学 エグゼクティブ・マネジメント・プログラム室 特任准教授

1979年(昭和54年)広島県広島市生まれ。2008年(平成20年)東京大学大学院博士課程修了(理学)、国立天文台 広報普及員・研究員(ハワイ観測所)を経て、現在に至る。天文学と社会の関係をどのようにデザインするか、という観点から実践的な研究活動を行っている。六本木天文クラブの企画責任者。主な著作物に「一家に1枚 宇宙図」(共著)など。



中間 真一

株式会社ヒューマンリソース研究所 代表取締役社長 兼 研究所長

1959年生まれ。慶応義塾大学工学部卒業、埼玉大学大学院(経済学)修了。株式会社ヒューマンリソース研究所の創設メンバーとして参画し、オムロン創業者らによる未来予測理論「SINIC理論」を活かした未来社会研究に従事して現在に至る。「自動」「自律」「自然」をテーマとした人とテクノロジーのインタラクション、「遊」「学」「働」の未来展望など、創設以来Do tankを目指し、フィールドで未来予兆を探索し、「てら子屋」など未来の担い手が育つフィールドづくりも手がける。共著書に「スウェーデン—自律社会を生き人びと—」(早稲田大学出版部)、「北欧学のフロンティア」(ミネルヴァ書房)など。



占部 まり

宇沢国際学館 取締役 / 内科医

1965年、シカゴにて宇沢弘文の長女として生まれる。東京慈恵医科大卒。現在は地域医療に従事するかたわら、宇沢の「社会的共通資本」をより多くの人に知ってもらうための活動を行う。京都大学人と社会の未来研究院にて、社会的共通資本の未来寄付研究部門が2022年5月1日に設立される予定。環境問題や教育・医療など社会的共通資本を軸に横断的な研究が期待されている。



矢野 正也

丸善雄松堂株式会社 / 丸善CHIホールディングス 代表取締役社長 / 取締役

1987年、東北学院大学卒業、丸善(現・丸善雄松堂)株式会社入社。教・学本部E&L開発部長、図書館アウトソーシング(現アカデミック・プロセス・ソリューション)事業部長、執行役員を経たのち、2019年より現職。知的資本に大きな価値を見出し、人的資本経営に踏み出すと共に、地域や社会での「まなびのつながり」を育み、持続的なまなびを促進する環境づくりを支える企業であることを目指す。



岩井 睦雄

JT(日本たばこ産業株式会社) 取締役副会長

1983年、東京大学経済学部卒業、日本専売公社(現・日本たばこ産業株式会社)入社。人事部、経営企画部、銀行研修(富士銀行ロンドン支店)を経て、経営企画部にて、ビジョン策定、中期計画、組織文化変革、コントローラー、ビジネス・ディベロップメントなどを経験。一般社団法人日本アスペン研究所監事、一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサイエティ理事なども務める。



西村 勇哉

株式会社エッセンス代表取締役 / NPO法人ミラツク代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立。セクター、職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築と、大手企業の新領域事業開発支援、階層的な未来構想の設計、未来潮流の探索などに取り組む。2021年に株式会社エッセンスを設立。2021年9月に自然科学、社会科学、人文学を領域横断的に扱う先端研究者メディアesse-senseをリリース。知のアクセスを実現する「Knowledge Tech」企業として研究知と社会の接続に取り組む。滋賀県大津市在住、3児の父。大阪大学社会学部インシニアティブ招聘教授、大阪大学人間科学研究科後期博士課程(人類学)在籍

15:45-17:00

4F ③

SESSION 3-B

エッセンスセッション 先端研究のインパクトに出会う 2

本セッションは、各登壇者によるピッチプレゼンテーションを通じて、そのインパクトに出会う時間です。エッセンスセッションでは、エッセンスの記事群から分野を超えて衝撃的な驚きを生み出す研究者にご登壇いただき、その研究の現在と未来についてお話を伺います。

モデレーター
黒井 理恵
NPO法人ミラツク 理事

長崎発の養殖の未来と海の経済

征矢野 清
長崎大学 海洋未来イノベーション機構 環東シナ海環境資源研究センター 教授

泡盛、発酵を支える分子の世界と新たな循環型経済

平良 東紀
琉球大学 農学部 亜熱帯生物資源科学科 教授

Sfから生まれた人工臓器としての血液

小島 伸彦
横浜市立大学大学院 生命ナノシステム科学研究科再生生物学研究室 准教授

蛍光タンパク質による光診断薬

天野 麻穂
北海道大学大学院 医学研究院 / HIL0株式会社 代表取締役

人間を超越するスーパー知能をつくる可能性

池内 与志穂
東京大学生産技術研究所准教授

SPEAKERS



征矢野 清

長崎大学 海洋未来イノベーション機構 環東シナ海環境資源研究センター 教授

長崎大学 海洋未来イノベーション機構 環東シナ海環境資源研究センター教授、同機構の機構長、長崎大学に設置された次世代養殖戦略会議の会長を兼任。北海道大学水産学部 水産増殖学科を卒業後、同大学院水産学研究科に進み1993年に博士号(水産学)取得。その巻に長崎大学に就職し、現職に至る。サクラマス、メダカ、アユ、ハタ、ボラなどを対象とした水産増殖、生殖生理や内分泌研究に始まり、環境ホルモンや海洋温暖化など海の環境問題が魚類に与える影響などを30年近く長崎の地で研究している。



平良 東紀

琉球大学 農学部 亜熱帯生物資源科学科 教授

1995年琉球大学農学部卒業、九州大学大学院農学研究科に進学、2002年に博士号(農学)(九州大学)を取得。1999年に琉球大学農学部助教に採用され、2006年准教授を経て、2015年より同学部教授となり、現在に至る。酵素科学、応用微生物学および発酵科学における基礎から応用までの研究を行っている。抗カビ酵素、泡盛古酒香生成メカニズム、乳酸菌飲料・ヨーグルトおよび食品残渣の飼料化(エコフィード)のための乳酸菌発酵に関する研究を行うとともに、複数の企業と発酵食品の開発とその商品化を行っている。



小島 伸彦

横浜市立大学大学院 生命ナノシステム科学研究科再生生物学研究室 准教授

横浜市立大学大学院生命ナノシステム科学研究科再生生物学研究室 准教授。1974年大阪府生まれ。小学校から高校までの12年間を滋賀県高島郡(現・高島市)で過ごす。大阪大学で工学修士、東京大学で理学博士の学位を取得。神奈川科学技術アカデミー宮島「幹細胞」プロジェクト研究員、東京大学生産技術研究所助手・特任助教、UCLA医学部を経て、2013年より横浜市立大学に准教授として着任。「臓器設計学」の確立を目指し、細胞ベースの人工臓器の開発に取り組んでいる。2016年に攻殻機動隊REALIZE Project the Awardの攻殻×コンテスト部門において最優秀賞を獲得。同年、第43回日本臓器保存生物医学学会学術集会で会長賞を受賞。2020年にはクラウドファンディングを利用した「液体肝臓」開発プロジェクトを立ち上げ、本格的な研究を開始し、2021年第4回メドテックグランプリKOBÉにおいてロート賞を受賞、異能vationプログラム2021年度「ジェネレーションワード」部門ノミネートに他薦で選出。



天野 麻穂

北海道大学大学院 医学研究院

1995年お茶の水女子大学 理学部 化学科卒業。1997年同大学 大学院修士課程修了。2000年東京大学 大学院農学生命科学研究科 応用生命化学専攻博士課程修了。米UCLAでの研究生生活を経て、2006年より昭和女子大学生活科学部講師。2007年北海道大学 大学院先端生命科学研究院 特任助教に着任。その後、学内の研究活動を推進支援する専門職・URAIに転じ、2019年に医学研究院に移籍。NEDO TCP 2020 (Technology Commercialization Program) 最終審査会にて最優秀賞受賞。2021年8月HIL0株式会社を起業。



池内 与志穂

東京大学 生産技術研究所 准教授

2002年、東京大学・工学部化学生命工学科卒業。2004年、東京大学大学院・新領域創成研究科・修士課程先端生命科学専攻修了。2007年、東京大学大学院・工学系研究科博士課程・化学生命工学専攻修了。同年よりハーバード大学医学部・リサーチフェロー、ワシントン大学セントルイス医学部・スタッフサイエンティストを経て、2014年から東京大学生産技術研究所講師となる。2018年より同研究所・准教授。2020年にはBeyond AI研究推進機構を兼任。



黒井 理恵

NPO法人ミラツク 理事

北海道名寄市出身・在住。東京で編集者、CSRコンサルタントを経て2014年にUターン。2006年からファシリテーションについて学び、現在は全国で活動。テーマはまちづくり、企業・組織理念策定、長期ビジョン・計画策定、アウトワー/インナーブランディング、チームビルディングなど。産官学連携組織のコーディネーターなど、未来・ビジョン志向の協議会・組織の形成や運営に携わる。地域留学型市民大学「さとのび大学」講師兼地域事務局、北極域研究のナショナルフラッグシッププロジェクトArCSII国際政治課題「北極域実践コミュニティ」ファシリテーター。

15:45-17:00

4F ②

SESSION 3-C

GTIEセッション 研究発スタートアップの インパクトに出会う2

本セッションは、各登壇者によるピッチプレゼンテーションを通じて、そのインパクトに出会う時間です。GTIEセッションでは、全国7ブロックから集まった大学発スタートアップを担う研究者たちの研究とその事業についてお話を伺います。

モデレーター

真尾 淑子

東京工業大学研究・産学連携本部 特任教授 / イノベーションデザイン機構

1塩基の違いを区別する新しい核酸医薬品SNPD-siRNA by GTIE

程 久美子

東京大学大学院 理学系研究科 准教授

細胞内を標的可能な新規創薬プラットフォームの開発 by MASP

中馬 吉郎

新潟大学 理学部 准教授

フカボディプラットフォームの事業化を目指したフィジビリティスタディ by PSI

竹田 浩之

愛媛大学 プロテオサイエンスセンター 准教授

遺伝性型トロンボロイキン受容体を用いた免疫エフェクター細胞培養技術の事業化 by TRINS

田中 義正

長崎大学 医歯薬学総合研究科 / 先端創薬イノベーションセンター 教授 / センター長

全身性エリテマトーデスの新規診断法 by Tongali

秋山 真一

名古屋大学 大学院医学系研究科病態内科学講座 腎臓内科学特任講師

SPEAKERS



程 久美子

東京大学大学院 理学系研究科 准教授

早稲田大学大学院理工学研究所博士課程修了。三菱化成生命科学研究所、日本医科大学を経て、東京大学理学部特任助教授。2006年より東京大学大学院理学系研究科准教授。東京大学大学院新領域創成科学研究科、東京理科大学を兼任。2019年siRNAの分子設計の研究により日本核酸医薬学会学術賞受賞。



中馬 吉郎

新潟大学 理学部 准教授

1996年九州大学理学部化学科卒業。2021年九州大学大学院理学府分子科学専攻博士課程修了。その後渡米し、米国立衛生研究所(NIH)国立がん研究所(NCI)において博士研究員としてがん研究に従事。2021年帰国後、北海道大学理学部化学科助手に就任し、2013年に新潟大学理学部化学科に准教授(PI)として着任。その後改組等を経て2021年より新潟大学研究教授。専門は生化学、腫瘍診断および治療学。「化学の視点から生命現象を理解すること」を理念とし、独自開発した「新規創薬モダリティ」を用いた創薬開発研究では、社会実装に向けた取り組みを精力的に行っている。



竹田 浩之

愛媛大学 プロテオサイエンスセンター 准教授

1999年広島大学総合科学部卒業、2001年広島大学生物圏科学研究科博士前期課程修了、2004年同研究科博士後期課程修了。2011年愛媛大学無細胞生命科学工学研究センター助教に就任後、2016年より愛媛大学プロテオサイエンスセンター 准教授。研究分野は応用生物化学、分子生物学、機能生物化学。



田中 義正

長崎大学 医歯薬学総合研究科 / 先端創薬イノベーションセンター 教授 / センター長

1964年、静岡県下田市生まれ。米国アルバートアインシュタイン医科大学 微生物学免疫学講座に留学し Barry R. Bloom教授(ハーバード大学公衆衛生大学院学長)の下で $\gamma\delta$ 型T細胞を用いたがん免疫療法を研究。1995年、Natureに発表。北海道大学大学院にて博士課程を修了後、(財)大阪バイオサイエンス研究所研究員、東京女子医科大学医学部助手、京都大学大学院医学研究科 助手・助教・特定准教授、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 准教授、兵庫医科大学医学部特命教授(併任)を経て、現在は長崎大学 先端創薬イノベーションセンターセンター長・卓越教授を務める。



秋山 真一

名古屋大学 大学院医学系研究科病態内科学講座 腎臓内科学講座 腎臓内科学特任講師

名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座腎臓内科学教室、特任講師。藤田医科大学医学部腎臓内科、客員教授。近畿大学水産研究所にて低魚粉化飼料の開発で課程博士(農学)を取得後、三重大学を経て、臨床医学ヘキャリアアチェンジ。医療法人偕行会を経て、2009年に現職場に入職。2020年ネフローゼ症候群診療ガイドライン分担執筆で自己免疫性腎疾患のバイオマーカー開発を得意とする。新規SLE診断薬で起業挑戦中。



真尾 淑子

東京工業大学 研究・産学連携本部 / イノベーションデザイン機構 特任教授 / 副機構長

投資銀行等での金融市場の調査に従事した後、スタートアップへの投資に携ったことがきっかけとなりスタートアップ・エコシステムに関心を持ち2022年よりGTIEに参加する。現在はGTIEにおいてGAPファンドを中心にスタートアップ・エコシステムの形成に取り組む。

15:45-17:00

5F ⑤

SESSION 3-D

OISTセッション

沖縄に集う先端研究の インパクトに出会う

本セッションは、各登壇者によるピッチプレゼンテーションを通じて、そのインパクトに出会う時間です。OISTセッションでは、エッセンスの1stパートナーでもある沖縄に所在する沖縄科学技術大学院大学(OIST)から5名の研究者をお招きし、沖縄に集う先端研究を担う研究者たちの現在の現在と未来についてお話を伺います。

モデレーター
隅屋 輝佳
一般社団法人Pnika 代表理事

佐藤 矩行
OIST(沖縄科学技術大学院大学) マリンゲノミクスユニット 教授

嘉部 量太
OIST(沖縄科学技術大学院大学) 有機光エレクトロニクスユニット 准教授

野村 陽子
OIST(沖縄科学技術大学院大学) 核酸化学・工学ユニット サイエンス テクノロジー アソシエイト

オリガ エリセーバ
OIST(沖縄科学技術大学院大学) / HerLifeLab 客員研究員 / 代表

田中 和正
OIST(沖縄科学技術大学院大学) 記憶研究ユニット 准教授

SPEAKERS



佐藤 矩行

OIST(沖縄科学技術大学院大学)
マリンゲノミクスユニット 教授

1945年8月生まれ。新潟県出身。東京大学大学院理学研究科博士課程中退。博士(理学)。京都大学理学部動物学教室にて、無脊椎動物のホヤをモデル生物にして動物の発生と進化の研究をしてきた。2009年より沖縄科学技術大学院大学に活動拠点を移し、サンゴ、褐虫藻、オニヒトデなどの研究にも取り組むようになった。2005年に動物の進化発生学の分野で大きな業績を挙げた研究者に贈られる国際賞「アレキサンダー・コワレフスキー メダル」を、2010年に発生生物学分野の国際賞「エドウィン・コンクリン メダル」を、ともに日本人研究者として初めて受賞。2006年に紫綬褒章を受章。



嘉部 量太

OIST(沖縄科学技術大学院大学)
有機光エレクトロニクスユニット 准教授

2010年よりポーリンググリーン州立大学、2011年よりマックスプランク高分子研究所、JSPS特別研究員PD、2012年より九州大学を経て2019年にOIST着任。長寿命励起子・リン光に関する研究、有機蓄光に関する研究に取り組む。専門分野は材料科学、有機半導体デバイス、錯体化学



野村 陽子

OIST(沖縄科学技術大学院大学) 核酸化学・工学ユニット サイエンス テクノロジー アソシエイト

1966年、東京都生まれ。日本女子大学大学院人間生活学大学院修了。博士(学術)。東京大学先端科学技術研究センター博士研究員、東京工科大学助手などを経て、2004年にカリフォルニア大学デービス校でプロジェクトサイエンティストとして研究室の運営に参加。核酸化学などのプロジェクトに10年間ほど関わる。2015年7月より沖縄科学技術大学院大学。核酸化学だけでなく、沖縄の伝統工芸である芭蕉布の研究もおこなっている。"核酸化学 芭蕉布 合成生物学



オリガ エリセーバ

OIST(沖縄科学技術大学院大学) / HerLifeLab 客員研究員 / 代表

沖縄科学技術大学院大学(OIST)客員研究員。1971年、ペラルーシ出身。同国立医科大学卒業後、国立血液研究所医師をへて96年来日。大阪大学医学博士課程を修了後、OIST、理化学研究所にて癌免疫研究。自身の更年期を機に女性の健康に関する研究に着手。1女、2男の母



田中 和正

OIST(沖縄科学技術大学院大学)
記憶研究ユニット 准教授

2015年10月 - 2016年3月:理化学研究所 脳科学総合研究センター、神経回路行動生理学研究チーム(supervisor: Thomas J. McHugh)、研究員
2016年4月 - 2019年3月:理化学研究所 脳科学総合研究センター(現 脳神経科学研究センター)、神経回路行動生理学研究チーム(supervisor: Thomas J. McHugh)、基礎科学特別研究員
2019年4月 - 2020年3月:理化学研究所 脳神経科学研究センター、神経回路行動生理学研究チーム(supervisor: Thomas J. McHugh)、日本学術振興会特別研究員SPD
2019年4月 - 2019年12月:沖縄科学技術大学院大学、准教授(アジャクト)



隅屋 輝佳

一般社団法人Pnika 代表理事

1987年生まれ、東京都出身。上智大学卒業後、ベンチャー企業、青年海外協力隊でのウガンダ勤務を経て、慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科修了。インベーターが行政や企業、学識者、市民とつながり、共同で法制度の設計を行えるようにするプラットフォームPnikaを2019年に設立し、代表理事を務める。

15:45-17:00

5F ④

SESSION 3-E

エコノミクスデザインセッション 先端経済学のインパクトに出会う2

本セッションは、各登壇者によるレクチャーとディスカッションを通じて、そのインパクトに出会う時間です。エコノミクスデザインセッションでは、企業との連携にも積極的に携わる先駆的な経済学者をお招きし、その背景となる研究知を学び、またその実践が生み出す企業価値の可能性についてお話を伺います。

レーティングの経済学

河田 陽向
駒澤大学 経済学部経済学科

見えないデータをベイズ統計学で測る

菅澤 翔之助
慶應義塾大学経済学部 准教授

モデレーター

安田 洋祐
大阪大学大学院経済学研究科教授 / 株式会社エコノミクスデザイン共同創業者

ディスカッションテーマ
「見えないモノを測る」

このセッションでは、「経済学のビジネス活用」を促進するエコノミクスデザインのエコノミストやパートナー経済学者と共にひとつのテーマを複数の視点で深ぼっていきます。

昨今、非財務価値の可視化をはじめ 様々な事象を指標化し時系列的に図っていくという流れがあります。では、その測るための指標を作るとは、どういうことなのか?理論研究として「レーティングの経済学」、実証研究として「統計的手法」の視点から見えないモノをどのように測っていくのかを議論していきます。

特に、企業として「ESG」の適時開示など測る重要性が高まっている中、どのように可視化していくか、オーディエンスの方々にもご参加いただくインタラクティブなセッションを行います。

SPEAKERS



河田 陽向

駒澤大学 経済学部経済学科 専任講師

Economics Design Inc. エコノミスト、慶應義塾大学経済学研究科博士課程修了。博士(経済学)。もの「よさ」を測る指標の設計を研究。主な著作に「社会の「よさ」をいかに測るか」(三菱経済研究所)、「Cosine Similarity and the Borda Rule」 in Social Choice and Welfare (2018) など。



菅澤 翔之助

慶應義塾大学 経済学部 准教授

東京大学経済学研究科統計学コース博士課程後期課程修了。統計数理研究所特任研究員を経て現職に就任。株式会社Nospare取締役
主な研究分野はベイズ統計学 / 状態空間モデル / 時空間統計学



安田 洋祐

大阪大学大学院 / 株式会社エコノミクスデザイン 経済学研究科 教授 / 共同創業者

1980年東京都生まれ。2002年東京大学卒業。最優秀卒業論文に与えられる大内兵衛賞を受賞し経済学部卒業生総代となる。米国プリンストン大学へ留学して07年Ph.D.(経済学)取得。政策研究大学院大学助教授、大阪大学准教授を経て、22年7月より現職。専門はゲーム理論、マーケットデザイン、産業組織論。American Economic Reviewをはじめ、国際的な経済学術誌に論文を多数発表。20年6月に株式会社エコノミクスデザインを共同で創業し、コンサルタント業務やオンライン教育サービス「ナイトスクール」を運営する。政府の委員やテレビのコメンテーターとしても活動。主な著書に「学校選択制のデザイン ゲーム理論アプローチ」(編著)、「そのビジネス課題、最新の経済学で「すでに解決」しています。」(共著)、「オークション・デザイン もの値段はこう決める」(監修)など。

15:45-17:00

4F ①

SESSION 4-A

研究価値を社会に届けるための 投資のあり方を問う

助成、補助、出資、寄付。さまざまな資金確保の手段が発展する中で、研究価値を社会に届けるためにどのような資金とのつながり方への挑戦が可能なのか。

本セッションでは、研究価値という一見すると投資との距離が遠いテーマについて、積極的な新しい資金確保の挑戦に取り組む異なる立場の実践者との対話を通じて意見を交え、その現状と可能性を共有していきます。

野口 義文
立命館大学副学長

渡邊 文隆
公益財団法人京都大学IPS細胞研究財団社会連携室長

中村 貴裕
株式会社Midtown 代表取締役CEO

渡邊 拓
HERO Impact Capital Founder & General Partner

モデレーター
西村 勇哉
株式会社エッセンス 代表取締役

SPEAKERS



野口 義文

立命館大学 副学長

1992年、学校法人立命館に入職。研究部門の要職を歴任、研究部事務部長・産学官連携戦略本部副本部長を兼任。また、政府や自治体、学術・研究機関の有識者委員なども務め、2011年には、産学官連携に関わるコーディネータの活動・実績が評価され、独立行政法人科学技術振興機構「イノベーションコーディネータ賞」を受賞。



渡邊 文隆

(公財)京都大学IPS細胞研究財団
社会連携室長

中学三年時にがんで父親を亡くし、あしなが育英会の奨学金で高校・大学へ進学。環境ビジネス企業のマーケティング担当から、2013年に京都大学IPS細胞研究所国際広報室に着任、寄付募集担当者として勤務。2020年から(公財)IPS財団の寄付募集活動に従事。職務の傍ら、京都大学大学院経営管理教育部 経営科学専攻(博士後期課程)にて寄付のマーケティングを研究。



中村 貴裕

株式会社Midtown 代表取締役CEO

高校生の頃に読んだ科学雑誌Newtonをきっかけに宇宙に興味を抱く。九州大学、東京大学大学院で太陽系起源の研究をした後、新卒でアクセンチュア(株)に入社し小売や製造業のSCM領域のコンサルティングに従事。その後(株)リクルートに転じ、新規事業開発室にて自ら企画・立案した事業の立ち上げを複数経験。

2015年より(株)ispaceにて、取締役COOとしてビジネス全般を統括。事業開発、政府リレーション、組織開発やHAKUTO、HAKUTO-Rの立上げと推進を行い、2017年に日本では過去最高額となる103.5億円のseriesA資金調達を実施。社員2名から社員200名規模へのスケールアップを経験。

2022年7月に宇宙×気候変動×生物多様性をキーワードに地球規模の社会課題解決を目指して、株式会社Midtownを創業。複数のスタートアップ企業のCXOやアドバイザー、月面産業ビジョン協議会の座長代理を兼務。



渡邊 拓

HERO Impact Capital Founder &
General Partner

1992年、京都府生まれ。洛南高等学校卒業。慶應義塾大学退学。在学中にNPO法人AIESEC JAPAN 2015年度代表を務める。AI特化型インキュベーター兼VCであるDEEPCOREへ2017年に参画し、研究開発型スタートアップへの創業期投資を担当。2021年12月に、地球課題解決に貢献する次世代研究者を支援する財団「ZERO Foundation」を設立し、代表理事に就任。2022年2月に、若手研究者と共同創業するベンチャーキャピタル「HERO Impact Capital」を設立、General Partnerに就任。



西村 勇哉

株式会社エッセンス代表取締役 /
NPO法人ミラツク代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立。セクター、職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築と、大手企業の新領域事業開発支援、階層的な未来構想の設計、未来潮流の探索などに取り組む。2021年に株式会社エッセンスを設立。2021年9月に自然科学、社会科学、人文科学を領域横断的に扱う先端研究者メディアesse-senseをリリース。知のアクセスを実現する「Knowledge Tech」企業として研究知と社会の接続に取り組む。滋賀県大津市在住、3児の父。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授、大阪大学人間科学研究科後期博士課程(人類学)在籍

17:30-18:45

4F ③

SESSION 4-B

エッセンスセッション

先端研究のインパクトに出会う 3

本セッションは、各登壇者によるピッチプレゼンテーションを通じて、そのインパクトに出会う時間です。エッセンスセッションでは、エッセンスの記事群から分野を超えて衝撃的な驚きを生み出す研究者にご登壇いただき、その研究の現在と未来についてお話を伺います。

モデレーター

増村 江利子

NPO法人グリーンズ / 合同会社森に還す 編集長・副代表 / 共同代表

量子コンピューティングによるゆらぐ社会

大関 真之
東北大学大学院 情報科学研究科 教授

流れのデザインが実現するブルーエコノミー

瀬名波 出
琉球大学 工学部 教授

脳科学と美学の交差点が見出す畏怖の価値

石津 智大
関西大学 文学部 教授

バイオミネラルゼーションから導く脱炭素

鈴木 道生
東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授

問いのデザインの社会実装

塩瀬 隆之
京都大学 総合博物館 准教授

SPEAKERS



大関 真之

東北大学大学院 情報科学研究科 教授

東北大学大学院情報科学研究科情報基礎科学専攻・教授。株式会社シグマアイ代表取締役CEO。1982年東京生まれ。2008年東京工業大学大学院理工学研究科物性物理学専攻博士課程早期修了。東京工業大学産学官連携研究員、ローマ大学物理学科研究員、京都大学大学院情報科学研究科システム科学専攻助教を経て東北大学大学院情報科学研究科応用情報科学専攻教授。大量の情報から本質的な部分を抽出する、または少数の情報から満足のいく精度で背後にある構造を明らかにすることができる「スパースモデリング」や、次世代コンピュータとして期待される量子コンピュータ、とりわけ「量子アニーリング」形式に関する研究活動を展開している。2019年4月には東北大学発のスタートアップであるシグマアイを創業。2016年度文部科学大臣表彰若手科学者賞受賞。



瀬名波 出

琉球大学 工学部 教授

1967年沖縄県生まれ。1991年琉球大学工学部エネルギー機械工学科卒。1993年同大学院工学研究科機械工学専攻修了後、同大学工学部助手に採用。2001年名古屋大学大学院工学研究科工学博士取得。2006年琉球大学工学部准教授、2018年琉球大学工学部教授に就任。2009年から海洋バイオマスを利用したCO2削減・利活用研究に着手。広く学外の研究機関と協働して、沖縄の産業にも貢献できるよう、海ブドウやモズク等といった海藻の早期育成の研究を推進している。



石津 智大

関西大学 文学部 教授

東京大学大学院農学生命科学研究科 教授。2003年、東京大学農学部生命化学専攻卒業。2008年に同大学大学院農学生命科学研究科・博士課程修了、博士(農学)を取得。2009~2012年 同大学院理学系研究科に日本学術振興会特別研究員(PD)として勤務。この間、2010年から1年間、日本学術振興会の優秀若手研究者海外派遣事業でイスラエルのWeizmann Institute of Scienceに赴任。帰国後、東京大学 大学院農学生命科学研究科講師、准教授を経て、2020年から教授を務める。専門は、生物無機化学、分析化学、バイオミネラルゼーション、生物有機化学。



鈴木道生

東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授

東京大学大学院農学生命科学研究科 教授。2003年、東京大学農学部生命化学専攻卒業。2008年に同大学大学院農学生命科学研究科・博士課程修了、博士(農学)を取得。2009~2012年 同大学院理学系研究科に日本学術振興会特別研究員(PD)として勤務。この間、2010年から1年間、日本学術振興会の優秀若手研究者海外派遣事業でイスラエルのWeizmann Institute of Scienceに赴任。帰国後、東京大学 大学院農学生命科学研究科講師、准教授を経て、2020年から教授を務める。専門は、生物無機化学、分析化学、バイオミネラルゼーション、生物有機化学。



塩瀬 隆之

京都大学 総合博物館 准教授

京都大学総合博物館准教授。1973年生まれ。京都大学工学部卒業、同大学院工学研究科修了。博士(工学)。専門はシステム工学。2012年7月より経済産業省産業技術政策課にて技術戦略担当の課長補佐に従事。2014年7月より復職。小中高校におけるキャリア教育、企業におけるイノベーション育成研修など、ワークショップ多数。平成29年度文部科学大臣賞(科学技術分野の理解増進)受賞。著書に「問いのデザイン 創造的対話のファンリレーション」、「インクルーシブデザイン:社会の課題を解決する参加型デザイン」(いずれも共著、学芸出版社)など。



増村 江利子

NPO法人グリーンズ /
合同会社森に還す 編集長・副代表 /
共同代表

greenz.jp編集長、esse-sense編集長担当。国立音楽大学卒業後、Web制作、広告制作、編集を経てフリーランスエディターとして活動。2017年に東京から長野県諏訪郡に移住。三児の母として、犬二匹、猫三匹とともに、9坪程度の小屋でDIYの暮らしを実践中。ミニマリストとしての暮らしぶりは「アイム・ミニマリスト」(編YADOKARI)にも収められている。竹でつくったトイレレットペーパーの定期便「BambooRoll」を運営する、おかえり株式会社の共同創業者。竹ペレットの猫トイレの砂を販売する合同会社森に還す共同代表。信州大学 農学部 農村計画学研究室に在学中。

17:30-18:45

4F ②

SESSION 4-G

GTIEセッション 研究発スタートアップの インパクトに出会う3

本セッションは、各登壇者によるピッチプレゼンテーションを通じて、そのインパクトに出会う時間です。GTIEセッションでは、全国7ブロックから集まった大学発スタートアップを担う研究者たちの研究とその事業についてお話を伺います。

モデレーター

真尾 淑子

東京工業大学研究・産学連携本部 特任教授 / イノベーションデザイン機構 副機構長

医療特化型EdTechを用いた薬剤師教育サービスの提供 by PSI

木村 郁哉

岡山大学病院 薬剤部薬剤師

光学干渉を利用した高精度非接触温度測定技術 by PSI

東清一郎

広島大学 大学院先進理工系科学研究科 教授

少量のデータにより異常を含む画像を自動検知するAI技術 by PARKS

徳永 旭将

九州工業大学 情報工学研究院知能情報工学研究 准教授

熱伝導感度計測に基づく複合材料のミクロスケール疲労劣化評価 by Tongali

藤田 涼平

名古屋大学 大学院工学研究科博士後期課程2年

SPEAKERS

木村 郁哉

岡山大学病院 薬剤部

福岡大学薬学部の助教として学生実習などに従事したのち、岡山大学病院の薬剤師として臨床現場を経験。知人の身に生じた薬による医療事故を機に薬剤師教育に課題を感じ、株式会社 Medswell を立ち上げ薬剤師教育アプリケーション「Medical VISTA」の開発に取り組む。将来的には医療従事者すべてを対象に事業を展開し、医療事故のない世界を目指す。

東 清一郎

広島大学 大学院先進理工系科学研究科 教授

半導体デバイス製造プロセスに関する研究を民間企業および大学でおこなってきました。光学干渉非接触温度測定法(OICT)は試料表面温度を裏面から計測可能であり、100usの高時間分解能が特徴です。プラズマプロセス中のウエハ表面温度モニタリング、パワーデバイス動作時の自己発熱温度計測、積層構造における界面熱抵抗の計測、等に幅広く応用可能であり、試料内部温度を3次元で可視化することができる技術です。

徳永 旭将

九州工業大学 情報工学研究院
知能情報工学研究 准教授

学生時代には東南アジア、南米やアフリカ等でのフィールドワークを経験。明治大学でのポストドク経験の後、高度情報科学技術研究機構で企業の大型計算機資源の活用を促進するプロジェクトに従事、その後、情報システム研究機構・統計数理研究所にて神経科学分野の大型プロジェクトに参画。現在、九州工業大学においては、「現場に貢献できる」データサイエンス・AIの基盤技術の研究に取り組む。

藤田 涼平

名古屋大学 大学院工学研究科
博士後期課程2年

全日本空輸にて航空機整備に従事した後、修士課程で研究したハイスループット熱物性計測技術による大学発ベンチャーを志す。その後名古屋大学博士課程に進学。現在は学術振興会特別研究員兼1児のパパとして研究に没頭しつつ、製品開発や営業活動を行う。昨年度はGAPファンドプログラムに採択され、半年でプロトタイプを開発。展示会への出展を機に、放熱材料分野から多数の評価依頼を受ける。趣味は海外旅行。

真尾 淑子

東京工業大学 研究・産学連携本部 /
イノベーションデザイン機構 特任教授 /
副機構長

投資銀行等での金融市場の調査に従事した後、スタートアップへの投資に携ったことがきっかけとなりスタートアップ・エコシステムに関心を持ち2022年よりGTIEに参加する。現在はGTIEにおいてGAPファンドを中心にスタートアップ・エコシステムの形成に取り組む。

17:30-18:45

5F ⑤

SESSION 4-D

東大EMPセッション 東大発のリベラルアーツプログラムの インパクトに出会う

本セッションは、東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム(EMP)が提供する企業人向けプログラムのデモセッションを通じて、そのインパクトに出会う時間です。東大EMPセッションでは、東大EMPで講義を担当する2名の研究者と、東大EMPの修了生3名(企業、行政、官庁)をお招きし、東大発のリベラルアーツプログラムを体験し、その実践が生み出す組織的価値の可能性についてお話を伺います。

小野塚 知二
東京大学 / 東京大学大学院 EMP / 経済学研究科 コチエア / 名誉教授

廣吉 康平
東大EMP修了生 / 株式会社九電工

下城 理重子
東大EMP修了生 / ベイビュー・アセット・マネジメント株式会社

高梨 直紘
東京大学 東大EMP / 東京大学 セクレタリー・ジェネラル / 特任准教授

モデレーター
宝槻 圭美
NPO法人ミラツク 執行役員

SPEAKERS



小野塚 知二

東京大学 / 東京大学大学院 EMP /
経済学研究科 コチエア / 名誉教授

歴史家、経済学者。1957年神奈川県生まれ。東京大学経済学部経済学科卒業、東京大学大学院経済学研究科第2種博士課程単位取得退学。博士(経済学)。著書に『経済史』、共著に『第一次世界大戦開戦原因の再検討:国際分業と民衆心理』、『経済史・経営史研究入門』、編書に『共同体の基礎理論』などがある。労働や産業、食、野良猫、民衆心理などをテーマに社会経済のありようを読み解く。それらを通して、経済史を俯瞰し、人類の経済活動の行く末を予見している

廣吉 康平

東大EMP修了生 / 株式会社九電工

下城 理重子

東大EMP修了生 / ベイビュー・アセット・
マネジメント株式会社

高梨 直紘

東京大学 東大EMP /
東京大学 セクレタリー・ジェネラル /
特任准教授

1979年(昭和54年)広島県広島市生まれ。2008年(平成20年)東京大学大学院博士課程修了 博士(理学)、国立天文台 広報普及員・研究員(ハワイ観測所)を経て、現在に至る。天文学と社会の関係をどのようにデザインするか、という観点から実践的な研究活動を行っている。六本木天文クラブの企画責任者。主な著作物に「一家に1枚 宇宙図」(共著)など。



宝槻 圭美

NPO法人ミラツク 執行役員

英国サセックス大学大学院(国際教育学)修了後、パングラダシユNGO、JICAエチオピア事務所、ユニセフブータン事務所、ユネスコアジア文化センターにて教育協力に従事。2016年4月より執行役員としてミラツクに参画。
ミラツク内における多様なワークスタイルを支え協働が生まれるための組織マネジメントに取り組む。家族は起業家の夫と2男3女。

17:30-18:45

5F ④

SESSION 4-E

エコノミクスデザインセッション 先端経済学のインパクトに出会う 3

本セッションは、各登壇者によるレクチャーとディスカッションを通じて、そのインパクトに出会う時間です。エコノミクスデザインセッションでは、企業との連携にも積極的に携わる先駆的な経済学者をお招きし、その背景となる研究知を学び、またその実践が生み出す企業価値の可能性についてお話を伺います。

「経済哲学」視点からの戦乱と取引

玉手 慎太郎
学習院大学法学部政治学科教授

「経済史」視点からの戦乱と取引

横山 和輝
名古屋大学大学院経済学研究科経済学専攻教授

モデレーター

安田 洋祐
大阪大学大学院経済学研究科教授 / 株式会社エコノミクスデザイン共同創業者

ディスカッションテーマ
「ビジネスの基礎をつくる一戦乱と取引」

このセッションでは、「経済学のビジネス活用」をテーマにエコノミクスデザインの経済学オンラインスクール「The Night School」に過去登壇いただきました講師をお呼びしてひとつのテーマを複数の視点で深ぼっていきます。

ビジネスの世界は、「温故知新」。過去の多くの事象や学知が、現在のビジネスの礎になるということは多くあります。このセッションでは、経済哲学や経済史の中からキーワードとして「戦乱」と「取引」をピックアップし、それぞれの視点から議論を深めていきます。

SPEAKERS



玉手 慎太郎

学習院大学 法学部政治学科 教授

1988年宮城県生まれ。現在、学習院大学法学部政治学科教授。東北大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。博士(経済学)。専門は政治哲学・倫理学。著書に「政治において正しいとはどういうことか」(共編著、勁草書房)、「平等の哲学入門」「支配の政治理論」(ともに共著、社会評論社)など。訳書にヤン・エルスター「酸っぱい葡萄」(勁草書房)、アマルティア・センほか「生活の豊かさをどう捉えるか」(共訳、見洋書房)など。



横山 和輝

名古屋大学大学院 経済学研究科
経済学専攻 教授

1971年生まれ。一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学、一橋大学経済学部助手、東京大学日本経済国際共同研究センター研究員を経て、現在、名古屋大学大学院経済学研究科准教授。



安田 洋祐

大阪大学大学院 / 株式会社エコノミクス
デザイン 経済学研究科 教授 / 共同創業者

経済学者 | 大阪大学大学院経済学研究科 教授
1980年東京都生まれ。2002年東京大学卒業。最優秀卒業論文に与えられる大内兵衛賞を受賞し経済学部卒業生総代となる。米国プリンストン大学へ留学して07年Ph.D.(経済学)取得。政策研究大学院大学助教授、大阪大学准教授を経て、22年7月より現職。専門はゲーム理論、マーケットデザイン、産業組織論。American Economic Reviewをはじめ、国際的な経済学術誌に論文を多数発表。20年6月に株式会社エコノミクスデザインを共同で創業し、コンサルタント業務やオンライン教育サービス「ナイトスクール」を運営する。政府の委員やテレビのコメンテーターとしても活動。主な著書に「学校選択制のデザイン ゲーム理論アプローチ」(編著)、「そのビジネス課題、最新の経済学で「すでに解決」しています。」(共著)、「オークション・デザイン もの値段はこう決める」(監修)など。

17:30-18:45

4F ①

エッセンスフォーラム 2023

Encounter of the Impacts

日時 | 2023年9月22日(金) 10:00-19:00 *交流会 19:00-20:30

会場 | 東京ミッドタウン八重洲 4F-5F イノベーションフィールド

主催 | 株式会社エッセンス / NPO法人ミラツク

共催パートナー | GTIE (Greater Tokyo Innovation Ecosystem)

/ OIST (沖縄科学技術大学院大学) / 株式会社エコノミクスデザイン / 東京大学EMP

特別共催パートナー | 株式会社Lab Base

/ Suntory Rising Stars Encouragement Program in Life Sciences (SunRiSE)

協力 | JST (科学技術振興機構) / 一般社団法人ナスコンバレー協議会

/ みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム (MASP)

/ Tokai Network for Global Leading Innovation (Tongali)

/ Peace & Science Innovation Ecosystem (PSI)

/ Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem (PARKS)

特別協賛パートナー | 三井不動産株式会社

プラチナパートナー | サントリーホールディングス株式会社

協賛パートナー | 京セラ株式会社 / 株式会社博報堂 / 株式会社ローンディール

/ 株式会社LIFULL / 株式会社 島津製作所

esse-
sense



NasuconValley



SUNTORY



・HAKUHODO・



esse-sense.com

